

2026年3月16日

「千葉・武蔵野アライアンス」フェーズ3計画について

武蔵野銀行（頭取 長堀 和正）と千葉銀行（頭取 米本 努）は、2016年3月に締結した包括業務提携「千葉・武蔵野アライアンス」の10周年にあたり、フェーズ3として本年4月よりスタートする新たな5か年計画を策定いたしましたので、お知らせします。

1. 計画名称

「千葉・武蔵野アライアンス」フェーズ3計画

2. 計画期間

2026年4月1日～2031年3月31日（5年間）

3. ビジョン

地銀連携のフロントランナーとして、進化した地方銀行の姿を実現する

4. フェーズ3の方向性

フェーズ3を本アライアンスの「飛躍期」と位置づけ、以下の3つの基本方針のもとこれまでに培った土台を活かし、連携をより深めていくことで、地域経済・社会の更なる活性化やお客さまサービスの一層の高度化を目指してまいります。

Create（創る）：創造領域の飛躍的拡大

AI や DX を活用したサービス・商品の共同開発を通じて、お客さまや両行の生産性向上を目指します。

Match（合わせる）：深化した業務共同化

基幹系システムが異なる両行において、業務フローやツールの共同化を進めてまいります。

Advance（進める・広げる）：他アライアンスへの深化・拡大

実現した施策を TSUBASA 行やじゅうだん会行へ展開します。

5. 提携効果額（5年間）

トップライン収益の拡大とコスト削減により両行合計200億円を見込んでおります。

※なお、千葉・武蔵野アライアンスのこれまでの歩みや取組みにつきましては、こちらの二次元コードまたは URL よりご視聴いただけます。

URL : <https://youtu.be/ZyT8shwp1s4>



報道機関からのお問い合わせ先
総合企画部 アライアンス推進室 中西 修一・岡田 知大
TEL (048) 641-6111（代表）

以上



使命

お客さま、地域のために両行のアイデアを融合し、付加価値や利便性の高いサービスを提供する

ビジョン

地銀連携のフロントランナーとして、進化した地方銀行の姿を実現する

コンセプト

フェーズ3
“飛躍期”

2026
~
2030

フェーズ2
深化期

2021~2025

提携初期

2016~2020

3つの基本方針

Create

創造領域の
飛躍的拡大

Match

深化した
業務共同化

Advance

他アライアンスへの
深化・拡大

Create
新領域での連携

Match
共通化・共同化の加速

Advance
これまでの取組みの
継続・深化

トップライン向上・コスト削減など全方位での連携

お客さま支援力の強化
(アプリ・キャッシュレス加盟店等)

都内エリアでの協業
(取引先紹介・共同拠点)

事務・ツールの共同化、ノウハウ共有

人材交流を通じた相互理解、情報連携

地域のお客さまを第一に

信頼と尊重

スピーディな協業

フェーズ3の方向性

Create

AI活用・DX推進による創造領域の飛躍的拡大

➤ **AIの活用**

- お客さま向けAIプロダクト・ソリューションの展開
- 人事異動・配置・新卒採用におけるAI活用
- 粉飾検知モデルの開発 など

➤ **新商品・ツールの共同開発**

- 預金商品、非金融商品サービス
- サステナ関連融資商品
- 住宅ローンスコアリングモデル など

Match

ホストやシステムの違いを超えた業務共同化

➤ **事務フロー・ツール共通化・システム共同化（業務フローの共通化も視野に）**

- TSUBASA汎用ペーパーレスシステム^(※)による事務共同化
- Power BIなどM365関連ツールの共同開発
- 相続後方業務・不動産担保業務などの共通化
- 市場部門の業務共同化 など

(※)千葉銀行・第四北越銀行・中国銀行・日本アイ・ビー・エム(株)が共同開発した、営業店業務における後続処理のペーパーレス化を可能にするシステム

Advance

CMAの枠組みを越えた他アライアンスへの深化・拡大

➤ **TSUBASA&じゅうだん会行へ展開（CMAを起点に）**

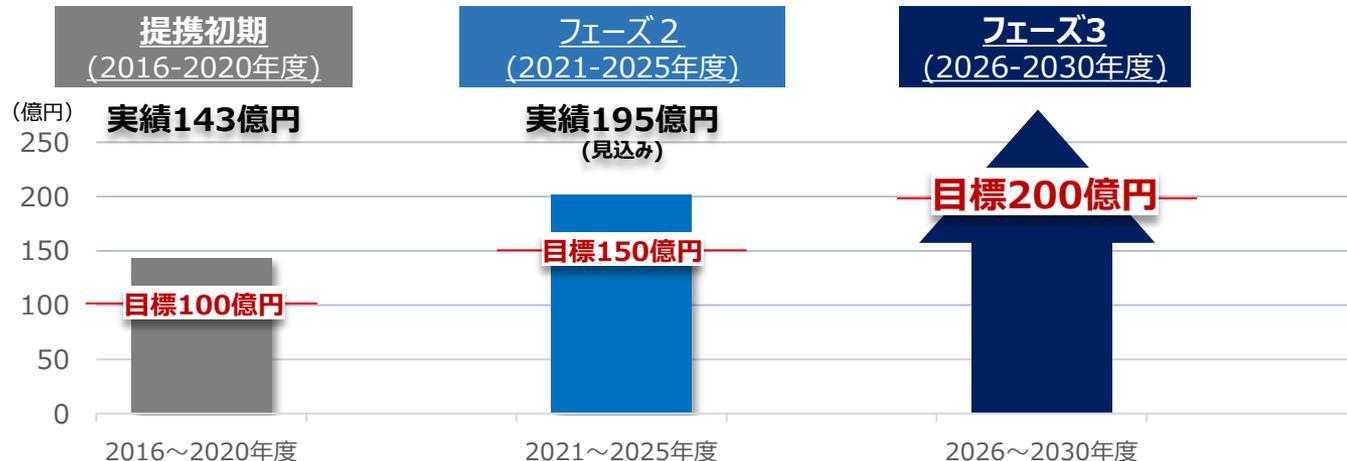
- 生成AIモデルやAIによる効率化ツール
- TSUBASA汎用ペーパーレスシステム
- その他、両行で生み出した各種ツール



連携効果額

フェーズ3

両行合計
200億円
以上



(参考) フェーズ2の振り返り

< フェーズ2における主な実績 >

トップライン

シンジケートローンや協調融資によるファイナンス支援（相互紹介による融資件数345件、総額209億円）
資産運用ビジネスの協業（ちばぎん証券・ちばぎんアセットマネジメントの活用）、相続関連業務の協業
共同店舗運営（池袋・浜松町）、キャッシュレス加盟店サービスにおける連携、
海外拠点（バンコク・香港・シンガポール）における連携・海外進出支援（ビジネスマッチングなど）

コスト削減

銀行アプリの共同開発、住宅ローン団信の共同化、各種事務ツール共通化
目論見書のオンデマンド化、手形小切手帳作成業務の共同化（関連会社の共同利用）
各種料金削減に関するノウハウ共有（共同実施によるコスト圧縮など）

その他

海外やAI人材など専門人材育成に向けた人材交流や短期トレーニーの実施（本部・営業店 総勢57名）
お客さま向けセミナーの共同開催、両行行員向け研修の合同実施

両行の取引先紹介件数・融資実行金額



効果額内訳

5年累計効果額
195億円(見込み)

■ トップライン
■ コスト削減

